

第30話 長月：「スポーツの秋」

右の写真は、1学期のある日の運動場の様子です。夏の暑い日でしたから仕方がないかもしれませんが、運動場が閑散としていました。本校は体力の向上にも力を入れて取り組んでいますが、基本は、自ら体を動かして遊ぶことだと思います。そこで、教職員自ら、子どもたちが外で遊ばない原因をいろいろ考えてみましたところ、「遊ぶものがない」「遊ぶ時間が短い」等の状況がみつけられました。



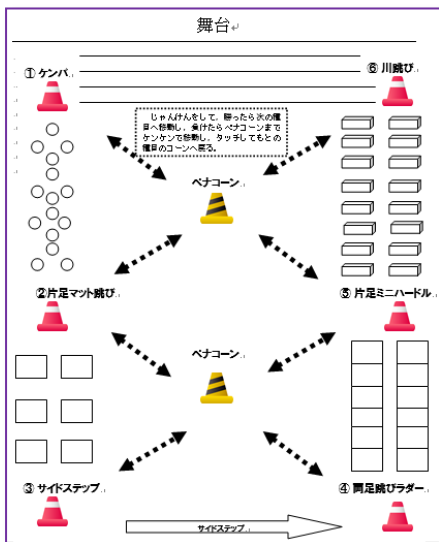
そこで、まず、健康安全部が中心となって竹馬や一輪車を準備しました。竹馬や一輪車は取り合いに



なることが予想されるため、学年ごとに曜日を決めました。また、安全面を配慮して、遊ぶエリアも限定して使うことにしています。さらに、これまで伝統的に行っていた大休憩の「ランランラン」をやめ、

その分遊ぶ時間を増やしました。9月の声を聞いたとたん暑さも和らいだせいか、子どもたちは遊具を取り合いながら大休憩を楽しんでいます。(ランランランは、完走大会前に季節限定で取り組みます)

もう一つの目玉は、全校児童によるサーキットトレーニングです。今まで毎週金曜日に実施していた学級遊びを隔週にして、全学年の1組と2組に分かれて運動を行うことにしました。写真のような「ミニハードル」の他、フープを使った「ケンパ」、「マット遊び」「サイドステップ」「ラダー」「川跳び」等、下の図のように、6つの種目を学年ごとに循環しながら運動していきます。



このトレーニングは、異学年がいっしょに行うため、下学年の児童は、上学年の児童の技術の高さやスピードを間近で見ることができます。上学年は、あこがれの存在として張り切って取り組んでいます。今後、さらに異学年間でのかかわりを増やしていくことも考えられます。

体力づくりの取組も、PDCAサイクルに沿って、課題を明らかにして、改善するための方法を考え実行に移していくことが大切だと感じました。今回の取組も進めていくうちに、新たな課題が生まれてくると思いますので、さらなる改善が必要になるときがくることでしょう。この変化の早い時代において、絶えず子どもたちの様子を観察しながら、今まで行ってきたことを見つめ直し、適時に修正または変更していく決断力と知恵が求められているなと感じました。

校長 寺岡 成希